

新エネルギーで 栗原を照らそう

河内
村井知事ら放談会

栗原市は三十日、村井嘉浩知事らを招き、次世代エネルギーを軸に地域の将来を考える新春放談会「くりはらの夢・未来」を、同市の栗原文化会館で開いた。

市民千人が参加。ベンチャー企業イデアルスター（仙台市）の笠間泰彦社長が基調講演し、同社の次世代太陽電池開発について説明。「このまちをどうしたいのか自分た

ちで考え、自らの手で人材を育てることが重要だ」と呼び掛けた。

続いて佐藤勇市長の司会で、新年度から同市で電気自動車の実証実験を行う慶応大の川嶋弘尚教授と笠間社長、村井知事がパネル討論。川嶋教授は「栗原市にいる最低二年の間に、（地域と）一緒にものを考え、交流していきたい」などと語り、村井知事が「工業の発展は兼業農家にとってもプラスになり、本県の農業産出額の増加が期待できる」と述べた。

本記事は河北新報社の著作物であり、無断転載を禁じます。